

技術室着任のご挨拶

達山 康人（令和4年4月1日採用）

1. 自己紹介

令和4年4月1日付で防災研究所、技術室へ着任いたしました達山康人（タツヤマ ヤスト）と申します。出身は鹿児島県であり高校卒業まで錦江湾を望みつつ過ごしました。桜島が身近な事もあり、降灰があるたびに道路脇で灰の砂遊び、桜島噴火による空振も日常の中で経験していました。鹿児島県民の降灰を確認する方法の一つとして、目が痛むときはシャツに目を落とし、黒い点があれば降灰有りとなります。



写真1. 本人



写真2.実家から望む桜島

幼少の頃より、漠然と「機械」というものが好きでラジコンの分解組立やプラモデルの改造などに夢中でした。その機械好きの性格もあり、九州大学工学部機械航空工学科へ進学しました。学部4年次には二重反転軸流ポンプ（翼が2枚あり、互いに逆回転する構造）の気液二層流状態の挙動に関する研究を行いました。その後、九州大学大学院総合理工学府、大気海洋環境システム学専攻へ進学し、数値シミュレーション（LES モデル）を用いた海面境界層の乱流状態の解析に関する研究を行いました。数値解析は初めての経験であり、まずは LES モデルの構成について学びました。モデルおよびプログラミングに慣れ、ようやく物理現象について深く研究を行える段階で卒業を迎えました。

趣味としまして、大学時代はバイクに四六時中乗っており、仲間と共にツーリングへ頻繁に出かけていました。その他にも、中学時代は野球部、高校時代は陸上部に所属しており、体を動かすことも好きです。

2. 技術職員を目指した動機

大学院修了後、兵庫県内の鉄鋼・機械・発電事業を扱うメーカーに就職しました。そこでは、石油精製プラント向けのリアクタおよび熱交換器の設計業務に従事していました。しかしながら、2021年に転機が訪れ、転職を決意しました。その際に防災研究所、技術室の公募を見つけることができました。応募するにあたり、学部時代にお世話になった技術職員の方に加え、修士時代にシステム・情報に関する支援を頂いた技術職員の方、海洋観測の機器に関する支援を頂いた技術職員の方々の振舞い・仕事ぶりを思い出しました。研究者のために尽力されている姿を思い出し、私も技術職員の道に進むことを決意し、応募いたしました。その結果、ご縁を頂き晴れて技術職員となることができました。

3. 技術職員として

4月1日入職後、遠心载荷実験室の担当を拝命いただきました。日々多くのことを先輩技術職員の方々よりご指導いただき、業務を覚えている段階となります。一つ一つの作業が自己を成長させるチャントと捉えて取り組んでいます。着任後間もないころに強く印象に残ったシーンがございます。それは、装置に載せるための土槽を何日もかけて丁寧に製作している学生の皆さまの背中となります。今後、関係各所とのコミュニケーションを大切にしつつ、ひた向きかつ情熱的に研究に取り組んでいる先生方、学生の皆さまを技術的に支援するために、自己研鑽に努めていく所存です。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

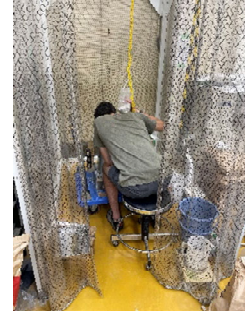


写真 3. 土槽製作中の学生